

日本学方法論の会 シンポジウム

主催 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室
国際現代文化研究ハブ

共催 大阪大学大学院文学研究科

協力 大阪大学グローバルCOEプログラム

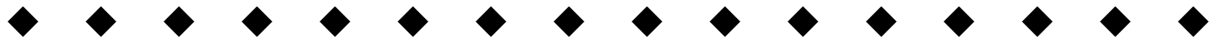
「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」内

「横断するポピュラーカルチャー」

研究プロジェクト



いま、指紋押捺を再考する



近年、社会の「安心」や「安全」の観点から、空港や銀行ATMなどで生体認証システムが広がっています。指紋による人間の識別は、イギリスの植民地支配に淵源をもち、日本も「満州国」などで労務管理や住民管理に利用した経緯があります。また戦後では、外国人管理のための手段として、外国人登録の際に押捺が求められていましたが、とくに1980年代以降に大きな社会問題となり、2000年には全廃されました。それが、新たな装いで復活してきているのです。また今春には、在日外国人の新たな在留管理制度が国会に上程されています。指紋押捺という身体に刻印された痕跡の歴史性を、改めて再考し、問題の広がり共有したいと考え、この企画をたててみました。

本シンポジウムでは、さまざまな立場や観点からのパネリストの報告と討論を通じて、指紋という窓から、日本をめぐる歴史・社会・文化に関する諸論点が見えてくるような方向をめざしたいと思います。日本学研究室の関係者はもとより、国際現代文化研究ハブに集う文学研究科、人間科学研究科、また他大学の研究者、院生、学生、さらに現代社会に関心をもつ一般の方々のご参加を呼びかけます。

日時： 2009年7月15日(水) 15:00~18:00

場所： 21世紀懐徳堂 多目的スタジオ (大阪大学豊中キャンパス内 イ号館)

パネラー：

杉原達 (大阪大学大学院文学研究科教授) 問題提起 (兼 司会)

李東石 (在日高麗労働者連盟) 「私にとっての指紋押捺」

板垣竜太 (同志社大学社会学部准教授) 「お前は誰だ！識別の政治と身体」

鄭祐宗 (大阪大学大学院文学研究科博士後期課程) 「外国人登録法」への思考——
制裁の論理とその矛盾」

アンジェロ・イシ (武蔵大学社会学部准教授) 「在日ブラジル人からみた指紋押捺」

* 会のあとで懇親会を予定しています。ふるってご参加ください。

問い合わせ先：日本学助教室

真鍋昌賢：mmanabe@let.osaka-u.ac.jp